

春ノリ・ワカメ採苗実施

今年度の海藻類養殖事業は道の委託試験が厚岸（春ノリ）、浜中（春ノリ、ワカメ）で行われるほか、根室をはじめ各地で計画されています。特に厚岸の業者の人々は去年の春ノリの不成績にもかかわらず、技術の向上と経営の合理化をねらつて努力しようとしておりますし、根室、浜中ではワカメ養殖の企業化を目ざして大変な意慾をもちやしています。

道東の養殖に必要な種苗は現在根室漁協人工採苗場が当水試と共同して採苗、種苗育成にあつておりますが、今年には解氷がほぼ平年なみの四月上旬になりましたので、春ノリ的人工採苗も四月三日から十八日まで、天然採苗は四月六日から順次行いました。

今年の採苗結果をみますと、人工採苗は例年のようにチシマクロノリ系状態を使用しま

したが、単胞子の放出も良く、採苗時の成績は良好でした。しかし、外海仮殖中に芽の脱落が昨年より多い傾向もみられます。これは網糸に附着した単胞子の附着能力、すなわちタネの活力が弱い結果ではないかと思われま

す。これに反して、天然採苗は昨年より好成績で、どの網も大変良い附着を示しております。天然採苗は人工採苗の欠点をおぎない、万一の場合に備える予備網として大切なことを痛感します。それと共にその年の養殖の目安をたてる、一つの試験とも云えるもので、これからもおろそかに出来ない採苗方法です。

天然採苗の結果から、今年の岩ノリも、発生が良く、高水温などで病気の発生がなければおそらく豊作になるでしょう。

ワカメの採苗は、本養成の適期、初摘み期

などを充分に検討し、今年には第一回を五月十五日、第二回を六月二十日とし、第一回目の人工採苗は予定通り終了しました。種苗は例年通り宮城県松島湾のものを利用しましたが、いつもと違う点は、天然ワカメではなく、養殖ワカメを母藻としたことです。遊走子の放出数も多く、少し密植になりそうなくらいで今後の管理には良く注意しなければ、去年のような弱い種苗になるおそれがあります。今年には水槽培養中に窒素や磷だけでなく、微量金属やビタミン類などの色々な栄養を含んだ培養液を加えて、建苗育成を計つて行く予定です。

なお、春ノリの移殖は五月末頃、ワカメの早種移殖は八月上旬頃の予定です。

火

「道東地方の春ノリ養殖」(1)

北水試月報五月号所載

昭和三十五年から根室地方を中心に進められて来た春ノリ養殖の試験調査の結果は、毎年の報告会で概要が報告されていますが、今回北水試月報五月号に、さらに詳しい解説が発表されました。この解説は三回にわたつて春ノリ養殖の全ぼうをお知らせする予定ですが、今回は基本となる考え方、養殖されているチシマクロノリとマクレアマノリの見分け方、発生する時期、繁茂成熟時期、季節ごとの量の変化、着生する高さなど、春ノリ養殖の基礎となる調査試験の結果が紹介されています。その内容はもちろん養殖に従事しようとする人ばかりでなく、岩ノリとして天然のノリを利用する人にとつても、非常に参考になるものです。北水試月報は組合、普及員のところに配布されていますので、一読をおすすめします。

(増 殖 部)

火